

保育おおさか

No. 435

平成 23 年 11 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

全国経営協30周年記念

これからの社会福祉法人が 担う役割とは

9月29・30の両日、富山市芸術文化ホール他を会場に開催された大会に全国から約1400人、大阪からは100人以上が参加。基調報告、東日本大震災復興対策委員会報告、特別講演、記念シンポジウムが行われ、第3分科会(2面に掲載)では「子ども・子育て新システムの動向」をテーマに活発に意見交換を行いました。

記念シンポジウム

新時代の社会福祉法人像を求めて

— 社会保障機能強化と

効率化への対応

潮谷義子氏(長崎国際大学学長)、宮本太郎氏(北海道大学大学院教授)、武居敏氏(全国経営協副会長)、古都賢一氏(厚生労働省社会援護局総務課長)らが、基調提言に続き熱く議論。

潮谷氏は、社会保障と税の一体改革を不可欠なものとしたうえで、改革には、国民の納得を得る必要があり、社会福祉法人の果たすべき役割と期待を述べました。



講演する佐々木常夫氏

宮本氏は、福祉国家における生活保障・社会保障について、これまでの政府の動向を踏まえ、具体的な課題を語りました。

古都氏は、社会保障と税の一体改革にたどり着いた経緯を説明され、社会福祉法人に求められるもの・取り組むべきことに言及し、担うべき公益性を体现する事業への取り組みについて説明。事業者として「経営」を必須とする法人運営が求められていると力説しました。

武居氏は、今日まで社会福祉法人が果たしてきた役割、社会福祉法人なくしては日本の福祉が成り立っていない現状、民間社会福祉法人が行政や公のサービスを越えたといっても過言ではないことを強調しました。

最後に進行役の浦野正男氏(全国経営協措置施設経営委員会委員長)が、今後の社会福祉法人の役割と、求められる責任の重さを訴え、シンポジウムを締めくくりました。

特別講演

経営者に求められる役割

— 環境変化に対応するために

佐々木常夫氏(株式会社東レ経営研究所特別顧問)が講演。『働く君に贈る25の言葉』など数々の著書がある佐々木氏は、自身の家族・仕事・会社について語られ、「ワーク・ライフ・バランス」を実現する仕事術、さらに「経営者10の鉄則」について言及しました。

①ゆるぎない倫理(金儲けではなく、世のため人のために)、②強固な意志(決意と覚悟をもって)、③現実把握力(人の言うことを鵜呑みにせず、事実を把握)、④大局観(洞察力、自分の仕事を通じて人に学ぶ力を持つているか)、⑤小異を超える(いろいろな人を認めていく)、⑥改革は非情に(ダラダラではだめ、改革は一発でやる)、⑦経営にセオリーはない(セオリーを信用せず、その企業に合った方策を)、⑧人の上に立つ器量(その人を許す、その人を認める器量を)、⑨経営者は経営しろ(まず終わりを見て、それまでのプロセスを考える)、⑩真摯であれ(人が生きる上で一番大切なこと)さらに、「これからの時代をどう生きるか。愛とは責任である。運命を引き受けよう、引き受けて頑張ろう。頑張っても結果は出ないかもしれないが、何もしなければ絶対に結果は出ない」と締めくくりました。



見た。

祖母らしき人に手を取られながらも、逆の手で千切れんばかりに振り続ける男の子。運転手はすぐ横にいる幼児に当然その気配を感じていよう。しかし、ここは谷町線でも1・2を争う乗降客の多い天王寺駅。幼児に構っている暇はない。

「将来の夢は電車の運転手さんです」そんな声が聞こえてきそうなその男児は、それでも手を振り続けている。私はその様子を見守り続けた。(子どもの夢を壊さないで...)でも乗降客の安全は第一だ。一時も目を離せないのも解る。

発車のベルがけたたましくなり、扉が閉まった。運転手は踵を返し、「前方良し」の指差し呼称をした。その間、件の子は手を振り続けていた。いよいよ電車が動き出すその一瞬。運転手はちらりと男の子に目を遣り片手を挙げた。「本物だ!」男の子も私も満足顔で帰路に付いた。

(編集委員 N・M)

時代が求める全世代対応の 制度改革と 子ども子育て支援



吉田正幸氏

第30回全国社会福祉施設経営者大会(分科会)から

調査研究委員より

正確で詳細な評価を期待

新ガイドライン

保育所の第三者評価における評価基準（ガイドライン）の改正が、平成23年3月30日に厚生労働省から通知されました。

改正通知を受けて府では7月、大阪府第三者評価事業推進委員会を開催し、厚生労働省の新ガイドライン

採用を決定。大阪府内で第三者評価を行う全ての評価機関は、新しい評価基準と着眼点で評価することになります。

新しい評価基準では、厚生労働省の通知に基づく共通基準53項目と保育分野の内容評価基準24項目からなる

第3分科会では、「子ども・子育て新システムの動向」と題して吉田正幸氏（保育システム研究所所長）が、新システムに移行する前の保育の構造、改革のポイントと課題、幼保一体化と「こども園」「総合施設」構想などについて説明しました。

次に、吉田正幸氏、宮本太郎氏（北海道大学教授）、宮田裕司氏（全国経営協保育所経営委員会副委員長）の三氏が「わが国における子ども・子育て支援のあり方と社会福祉法人としてのこれからの保育所経営」と題して鼎談。

宮本氏は、「社会状況の変化が、全世代対応の参加保障を必要としている制度改革の背景、その最も効果的で基本的な政策が、子ども子育て支援である」と訴求。吉田氏が、現行制度の限界と新システムのポイント

の違いを認め、それぞれの良さを生かす子どももの最善の利益を守るという普遍的なことを実現するのが本来の新システムであり、保育の質の向上が社会全体に見えること、プロセスとして評価できるシステムの構築が必要であること、さらに、社会福祉法人として公益性を高める観点から、補助金等の必要性を国民に十分理解してもらうこと、一施設・法人においても、議員を設置することや地域貢献など自らを厳しく律して経営を行うことが重要」と力説されました。

（編集委員M・K）

る必須基準77項目に、府の推奨基準1項目を合わせ計78項目になります。評価機関によっては、さらに独自基準を設けることがあります。

共通評価基準は55項目から53項目に、保育分野の内容評価基準は34項目から24項目に、計12項目縮小されますが、評価される内容は増え、むしろ着眼点の増加や変更などで、評価項目ごとに実施の内容を詳しく聞

門真市では、「民間保育園協議会」が参画し、さまざまな機関・団体で構成する「地域福祉連絡会」が組織されています。昨年度、市社会福祉協議会が事務局となって発足しました。

相互理解を深める機会を設けています。さまざまな相談に対応したつながりができるよう、相談窓口の「マップづくり」にも取り組んでいます。

社会資源と情報

の共有化や支援者の孤立を防ぐネットワークづくりなどを目的として月1回開催。各機関の得意分野を共有し、連携することで、迅速で相談者に適した支援をと活動しています。

各機関の得意分野を共有して支援

門真市「地域福祉連絡会」

● 地域貢献事業・各地域の取り組み ●

これまでに関催された勉強会には、スマイルサポーターや老人福祉施設のコミュニティソーシャルワーカー、行政、各施設の施設長などが参加し、保育園や老人福祉施設、障がい福祉施設が行う事業がどのようなものかなど、

と連携し、解決していくことが求められます。園内での事業推進体制づくりとともに、関係機関・団体とのネットワークづくりも欠かせない取り組みの一つです。

（調査研究委員H・O）

大きなケヤキとインコのあいちゃん ゆとりある明るい保育室

体力づくりと食育を重視
「スマイル広場」で地域貢献

富田林市

葛城保育園



大きなケヤキの木と園舎



オカメインコのあいちゃん

葛 城保育園は富田林市西部にあり昭和48年に開園、定員は150人です。

園で最初に迎えてくれるオカメインコの「あいちゃん」は、子どもたちや保護者の方たちからも愛される園のマスコット。登園時にぐずる子どもも、あいちゃんが奏でる歌に思わず笑顔。窓が大きく、明るい園舎2階の保育室は、各未満児クラスの活動、食事、睡眠の目的に応じて分割できるゆとりあるスペースです。

園庭にひととき目立つ大きなケヤキの木。開園当初からある保育園のシンボルです。園庭へ出た子どもたちも、自然とケヤキの周りに集まるそうで、深緑の木陰で夏の暑さをしのぎ、秋には色鮮やかな紅葉が楽しめるなど、季節の移ろいを教えてくれます。

近隣の散歩やリトミック、スポーツ教室での体力づくりなどに力を入れておられ、近隣の住宅内を駆け回るマラソン大会を冬に開催。子どもたちのやる気と達成感を育んでおられます。

食育にも力を注がれ、4、5歳児を中心に、園内にある畑で季節の野菜を栽培。収穫後は給食にも使われます。掘ったさつま芋を子どもたち自身が料理し、みんなでおやつに。自ら作ったものを食べることで、食物に対する興味や感謝の気持ちが芽生えることでしょう。

子育て講座や園庭開放に加え、子育て相談の日を設けて地域での子育てに関するサポートを行っています。近隣の公園で開く「スマイル広場（出前保育）」では、紙芝居や手遊びなど、日ごろ保育園で実践する内容を提供して、地域の方々から好評を得ています。

（編集委員H・M）



保育園を
たずねて

438



外国人講師による英語教室



プール遊び（深さの違う大中小のプールがあります）

思う存分駆け回る広い園庭
夏を心待ち、3種類のプール

人気の英語教室、食育にも力
支えてくれる地域に貢献

泉佐野市

ひかり保育園

関 西国際空港を間近に臨むひかり保育園は、平成17年4月1市初の民営化園として開設。定員は90人です。

「健康な体づくり」に加え「お互いを尊重し合う思いやりの心」と「豊かな感性と創造性」を育むことを保育目標とされ、広い園庭で園児たちが思う存分駆け回るなど、施設は充実しています。特に3種類の年齢別プールは、どの子ども夏が来るのを心待ちにしているそうです。

春と秋、地域のお年寄りで季節の野菜を育て、収穫を喜び合い、園児たちの手によるクッキングも楽しんでいます。「おいしさ」と「食べ物の大切さ」を実感することで、園児たちはより食への関心を持ちながら成長していくことでしょう。

地域との連携も重視しており、11月から始まる「子育てサロン」には、毎回園の保育士2人が支援参加の予定だとか。

（編集委員N・N）



● 防災対策について ●

大切な子どもの命を守る 津波想定の大規模訓練

貝塚市 協浜保育園の防災対策



放送を聞いて
真剣に避難を開始します

毎月1回の避難訓練、年1回の地震想定や不審者侵入想定、年2回の津波想定
の避難訓練を実施。

津波想定は避難訓練では、避難指定場所の小学校まで走って（乳児は避難車に乗って）避難します。職員は非常用持出袋を背負い、園児を安全に誘導。持出袋の中身や避難車の定期的な点検も欠かせません。

東日本大震災に際して、二色の浜海岸の近くにある当園の立地が、今まで以上に気掛かりになりました。さらに9月の台風12号による和歌山や奈良の水害、近い将来起こる可能性が高いと言われる東南海地震など、心配の種はさらに膨らみます。

通り一遍の訓練だけではなく、いつ何時起きるか分からない災害に対応すべく、敢えて慌しい夕方、避難場所である小学校まで保護者に園児を迎えに来てもら



小学校の体育館で
保護者のお迎えを待ちます

う訓練も実施。頭で想像すること、災害が起こった時の状況をシミュレーション体験することでは、保護者にとっても、大きな違いがあったと思います。当園における災害対策の重点は次のとおりです。

● 危機管理マニュアルを見直し、早朝や夜間の災害発生を想定した内容を盛り込む。園職員全員への理解徹底後に訓練を実施

● 地域との連携をさらに強め、避難先である小学校などと避難後の対応を話し合う

● 景観保持とバランスのとれた、津波避難ビルの整備を提案する

内閣府中央防災会議は「津波で避難する場合は原則自動車中止。徒歩5分（半径300m）以内で」と発表。現実的に即実現可能なことがありませんが、大切な子どもの命をお

預かりし、命を守るという使命感を忘れること無く、常に100%の安全を目指す

す保育園であり続けたいと思います。
(協浜保育園T・Y)

貝塚市

おおぞら保育園の防災対策



地域の方々と近隣の中学校に避難

と連携して実施

● 保護者・園児に事前予告なしの避難訓練を実施

● 地震・津波などの際、隣の5階超住居に避難

● 園名を記した垂幕を各クラス避難グッズの中に装備し、避難場所を明確化

● 非常持出し担当者が迅速に対応できるよう事務書類データをバックアップ

● 避難経路確保のため、飛散防止窓ガラス、飛散防止フィルム、防災カーテンなどガラス散乱を防止

● 災害時の避難に対応して3歳児以上は上靴使用

● 3歳未満児のための避難車の台数確保

● 散歩コース・園児数・引率職員名など一目で確認できる表作成。園の携帯電話を携行し目的地到着、帰園時に安全確認の連絡。災害避難所確認のための地域マップ装備。保護者緊急連

● 緊急避難場所へ速やかに移動できるよう、3歳児以上（成長に伴い2歳児も参加）の体力づくりにミニマラソンを取り入れ

● 年2回の津波訓練を地域

絡カードなどを避難用袋に常備

● 業者による施設安全定期点検。職員は毎日終了時と月一回の安全点検、避難経路の確保をチェック

ほかに、地域の会議に出席し、地域との連携を日頃から大切にしてきました。

3・11後に設置された防災専門委員会で、新たな防災避難対応マニュアルづくりが進んでいます。11月6日には、新たに600人規模の防災訓練を地域で行います。これには職員も参加します。訓練には災害用として本園の避難旗を地域の方々に5旗用意していただいています。

津波到着までは、状況を把握し園児の命を守る冷静な判断の時間ととらえ、日々保育で、防災意識を高めるよう努めています。

(おおぞら保育園K・N)



避難先で確認 みんな無事かな

河内

寄せ植え・芝生人形作り通して学ぶ

―保育士研修会
「植物講習会」

東大阪市のさわらび保育園で10月5日、「植物講習会」と題した保育士研修会を開催。大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校の小坂正幸氏が、植物の基本について

ての講義、寄せ植えや芝生の人形作りなどの実技指導を行いました。

植物は衣食住、全ての基本となっていることを踏まえて講義は進められました。

●植物の役割は、地域交流のコミュニケーションツールの一つであり、自然を感じながら生活することが大切。

●「苗半作・八作」という言葉があるように、最初の苗

の出来が、その後の生長の半分以上を決めてしまう。

●人の故郷は植物の原産地。幼少期こそ人間形成に一番大切な時期であるのと同じく、植物も原産地の環境に近づけるのが生長に欠かせない。

●植物の土台となる土は、水持ちが良く、なおかつ、水はけの良いものが適している。また、こうした環境を整えることで、さまざまな条件にも対応する丈夫な根を張ることができる。

実技では、寄せ植え人形

など色々なものを作りました。さつまいものつるを使ったリース作りでは、アイデアが次々と浮かび、時間を忘れて没頭。

講義の中で、「植物を育てるには、水を与え過ぎないこと」「欲しい物をいつでも与えてもらえると、物を大切にすることができなくなる」などのお話があり、子育てや保育にも通じるものだと再認識しました。

今回の研修会で得たことは、今後の保育にも活かし

堺

子ども・子育て新システムの展望

―堺市民間保育園連盟
園長研修会

9月8日、堺市産業振興センターで堺市民間保育園連盟園長研修会が行われました。

「子ども・子育て新システムの展望」をテーマに吉田正幸氏（有遊育代表取締役兼発行人・㈱保育システム研究所代表）が講演。具

ていきたいと思います。（さわらび保育園K・Y）

化 ④子ども、子育て会議（仮称）の設置など、新システムの具体的な内容について解説されました。

指定制の概要については、質の確保のための客観的基準を満たすことを要件に、認可外施設を含めて参入を認め、株式会社、NPO法人など多様な事業主体の参入を認めることにより、保育の量的拡大を図るとともに、利用者がニーズに応じて多様な施設や事業を選択できる仕組みとすることが大切であると説明。また、例外ない保育の保障の観点から、市町村が客観的基準に基づき、保育の必要性を認定することの重要性も語りました。

新システムの実施に向けた考え方について説明しました。

新システムの実施に向けた考え方については、潜在ニーズを含む保育などの量的拡大は、最優先で実施すべき喫緊の課題であると指摘。これと併せて職員配置の充実など必要な事項について、子ども・子育て新システムの制度の実施のため、財源を確保しながら実施すべき課題であると締めくくられました。

旬

海・山の幸求め夜明けと共に市へ
光り輝くリーダーがぼちぼち必要だ

秋本番！あちこちでイベントが。気候も良く、PRにつられびとつ走りの楽しい時候。先々月頼んでおいた別注節掘りトンガが出来たと高知から連絡有り。柚酢、文旦、海の幸・山の幸が溢れる日曜日へ、また走ろう。市では買うモノが多いので、最近はお小なキヤスターを持参。珍しい野菜などに遭遇すると、食べ方をしつこく尋ねてはモノにする。

市は夜明けと共に開く。最近はお土曜から一泊、宿一番の朝食を済ませ出掛ける。良い品を手に入れるには早い者勝ちだから、地元大阪の話。大き

また大震災が発生した場合、政府機能が停止する恐れがある！一国に都が二つは要らんが、有事の際はサブが必要。

現知事の「行政機能の二重構造の弊害を指摘」は理解できる。

ないと、賃金の安い国へ工場を造らざるを得なくなった。国の借金千兆円！税金上げると言えば、政党は潰されるから言わない。もうぼちぼち平和ボケ、自分さえ良ければの我が

(H・N)

国に、光輝くリーダーが必要だ。又々、食いしん坊の嘶。米は精米が旬 米屋に言わせれば、精米後、2週間迄が美味しく、後は味が落ちるのみ。それを聞き、早速精米機を買い込み玄米を精米。思い込みもあるが、卵かけご飯が特段旨く感じた。

例年、年末に地域の皆さんと餅つきをするが、一昨年来、玄米を前日に精米し、持ち帰った米を洗って水浸けにし、翌30日に餅に！良く伸びてめちゃ旨い！玄米は冷蔵保管にしたら、一年は大丈夫！！

府の推進体制、財源の一元

(編集委員T・S)